

Oil Market Review 21第32号

2021年（令和三年）

11月19日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

11/4~11/10のNYMEX・WTI先物市場は、78.81~84.15ドルの範囲で推移した。

11日は、反発し、12月限の終値は、前日比0.25ドル高の81.59ドル。前日に大幅に下げた反動で買いが優勢だった。エネルギー高を背景とした目先の需要の伸び悩み観測は相場の上値を抑えた。

週末12日は、反落した。12月限の終値は、前日比0.80ドル安の1バレル80.79ドル。米政府が原油の戦略備蓄を放出するとの観測や、原油需要が年末にかけて伸び悩むとの見方が売りを誘った。米国内の稼働中の石油掘削リグは、前週比4基増の454基となった。

週明け15日は、小反発し、12月限の終値は、前週末比0.09ドル高の80.88ドル。米政府が原油の戦略備蓄を放出するとの観測が相場の重荷となったが、売り一巡後は米景気回復に伴う需要増を意識した買いが優勢となった。バイデン米政権は足元のガソリン高を抑える目的で、一時的な輸出停止や原油備蓄の大規模な放出を検討中とされる。半面、市場では「規模が限られる戦略備蓄の放出では相場下落は短期にとどまる」との声もあり、売り一巡後は買い直された。

16日は、今後の需給動向に関する見方が割れる中、方向感に欠ける商いとなり、小反落した。12月限の終値は、前日比0.12ドル安の80.76ドル。

17日は、大幅に続落し、12月限の終値は、前日比2.40ドル安の78.36ドルと、約6週間ぶりの安値水準。米国が中国に対し、原油の戦略備蓄の放出を要請したと伝わり、需給緩和を意識した売りが優勢だった。

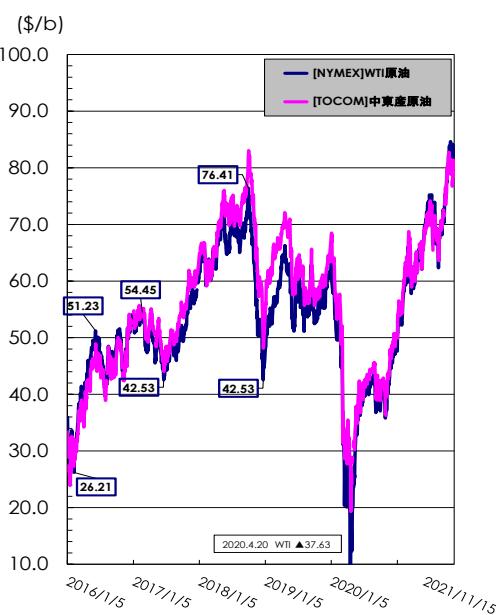
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(1月渡し)は、11月4日~11月10日の間、78.30~83.60ドルの範囲で推移した。11月11日81.30ドル、12日81.20ドル、15日80.60ドル、16日81.80ドル、17日81.00ドルで推移した。

為替は11月4日~11月10日の間、112.86~114.14円の範囲で推移した。11月11日113.96円、12日114.25円、15日114.00円、16日114.21円、17日114.87円で推移した。

財務省が11月17日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、10月下旬の原油輸入平均CIF価格は、55,101円/klで、前旬比1,595円高、ドル建て77.60ドルで前旬比1.20ドル高、為替レートは1ドル/112.88円。また、同日発表の貿易統計(速報・旬間)によると、10月の原油輸入平均CIF価格は、53,824円/klで、前月比2,815円高、ドル建て76.81ドルで前月比3.00ドル高、為替レートは1ドル/111.40円。

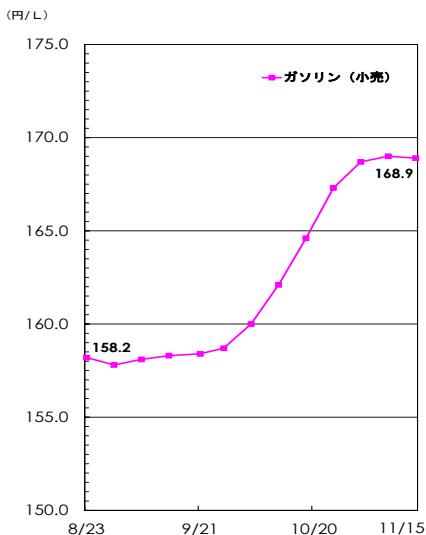
そのような中で、11月15日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油は同0.2円の値下がり、灯油は同1円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは11週振りの値下がり、軽油も11週振りの値下がり、灯油は11週連続の値上がりだった。この週(11月第3週)の原油コストは値上がりしているが、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、前週比±0.0円の据え置きとなった模様。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千㎘)	11/7 ~ 11/13	2,831	▲ 135	▲ -
	トップ稼働率 (%)	"	73.6	▲ 3.5	▲ -
	原油在庫量 (千㎘)	11/13	9,139	▼ -164	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/15	78.39	▼ -1.48	▲ 35.6
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	11/15	80.88	▼ -1.05	▲ 39.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月下旬	77.60	▲ 1.20	▲ 33.06
	①原油CIF単価 (¥/㎘)	"	55,101	▲ 1,595	▲ 25,544
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	112.88	▼ -1.54	▼ -7.37
外国為替TTSレート (¥/\$)		11/15	115.00	▼ -0.38	▼ -9.31



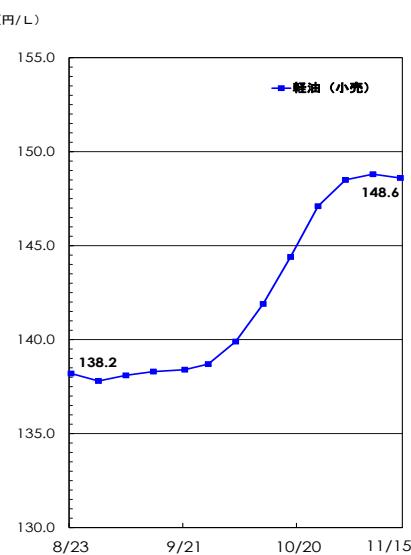
ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/7 ~ 11/13	817	▼ -111
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	798	▲ 54
	輸出	"	62	▼ -116
	在庫	11/13	1,511	▼ -44
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/9 ~ 11/15	76.3	▼ -0.7
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/9 ~ 11/15	75.8	▼ -0.1
	(TOCOM/中部)	11/15	77.0	► 0.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/15	168.9	▼ -0.1

※業転、先物価格は税抜き価格

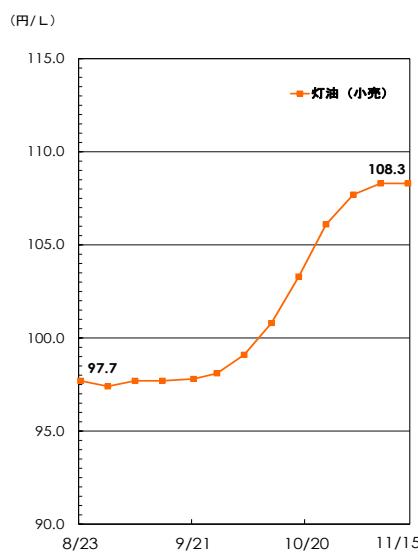


軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/7 ~ 11/13	699	▲ 53
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	661	▲ 67
	輸出	"	122	▲ 27
	在庫	11/13	1,257	▼ -84
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/9 ~ 11/15	77.4	▼ -0.4
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/9 ~ 11/15	79.5	▼ -0.1
	(TOCOM/中部)	11/15	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/15	148.6	▼ -0.2

※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/7 ~ 11/13	259	▼ -30
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	156	▲ 22
	輸出	"	28	▲ 28
	在庫	11/13	2,832	▲ 75
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/9 ~ 11/15	77.3	▼ -0.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	11/9 ~ 11/15	75.5	▼ -0.6
	(TOCOM/中部)	11/15	76.0	▼ -1.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/15	108.3	► 0.0



■ 関連情報

1 海外/原油

11月17日のNYMEX先物原油は、大幅に続落し、12月限の終値は、前日比2.40ドル安の78.36ドルと、約6週間ぶりの安値水準。1月限は2.19ドル安の77.55ドルだった。米国が中国に対し、原油の戦略備蓄の放出を要請したと伝わり、需給緩和を意識した売りが優勢だった。米国の中国への要請はサウスチャイナ・モーニング・ポストが17日に報じた。バイデン米大統領が中国の習近平(シー・ジンピン)国家主席と16日に開いたオンライン協議で、話題として取り上げたという。市場では先週から米政府が原油の戦略備蓄を放出するとの観測が出ている。今回の報道を受け、米中が連携する可能性が意識された。バイデン氏は17日、高止まりするガソリン価

格を巡り、石油・ガス会社の違法な価格のつり上げを取り締まるよう米連邦取引委員会(FTC)に指示した。インフレへの国民の不満が高まるなか、本格的に原油価格の抑制に動くとの見方につながった。

EIAによると、11月15日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.1セント値下がりの1ガロン3.399ドル(103.1円/㍑)、ディーゼルは同0.4セント値上がりの3.734ドル(113.3円/㍑)となった。ガソリンは7週振りの値下がり、ディーゼルは9週連続の値上がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年11月7日～11月13日に休止したトッパー能力は46.2万バレル/日で、前週に対して0.4万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は283.1万㎘と、前週に比べ13.5万㎘増加。前年に対しては7.4万㎘の増加。トッパー稼働率は73.6%と前週に対して3.5ポイントの増加、前年に対しては1.9ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油が増産、その他の油種で減産となった。

ガソリン/11.9%減、ジェット/2.0%増、灯油/10.3%減、軽油/8.2%増、A重油/21.1%減、C重油/11.4%減。今週のC重油の輸入は6.8万㎘(前週比6.4万㎘増)。軽油の輸出は12.2万㎘(前週比2.7万㎘増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェットが減少し、その他の油種で増加した。

前年比ではガソリン、軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンの出荷は79.8万㎘(前週比7.3%増)と2週連続で増加した。

ジェット0.9万㎘(前週87.9%減)、灯油15.6万㎘(前週16.5%増)、軽油66.1万㎘(前週11.3%増)、A重油18.6万㎘(前週15.5%増)、C重油17.7万㎘(前週43.5%増)。

(単位:千㎘)

	今週 (11/7 ~ 11/13)	前週 (10/31 ~ 11/6)	前週比
ガソリン	798	744	▲ 54 (7%)
ジェット燃料	9	71	▼ -62 (-87%)
灯油	156	134	▲ 22 (16%)
軽油	661	594	▲ 67 (11%)
A重油	186	161	▲ 25 (16%)
C重油	177	123	▲ 54 (44%)
合 計	1,987	1,827	▲ 160 (9%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月13日時点の在庫は、ジェット、灯油、C重油が積み増しとなり、他の油種で取り崩しとなった。

前年に対しては灯油が積み増しとなり、他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは151.1万㎘、前週差4.4万㎘減。前年に対しては40.6万㎘少ない。

灯油は283.2万㎘、前週差7.5万㎘増。前年に対しては6.7万㎘多い。

軽油は125.7万㎘、前週差8.4万㎘減。前年に対しては34.1万㎘少ない。

A重油は74.8万㎘、前週差0.4万㎘減。前年に対しては3.8万㎘少ない。

C重油は179.8万㎘、前週差2.6万㎘増。前年に対しては5.6万㎘少ない。

(単位:千㎘)

	今週 (11/13)	前週 (11/6)	前週比
ガソリン	1,511	1,555	▼ -44 (-3%)
ジェット燃料	767	718	▲ 49 (7%)
灯油	2,832	2,757	▲ 75 (3%)
軽油	1,257	1,341	▼ -84 (-6%)
A重油	748	752	▼ -4 (-1%)
C重油	1,798	1,772	▲ 26 (1%)
合 計	8,913	8,895	▲ 18 (0.2%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月9日～15日の指標原油価格は前週比で値上がりし、為替レートは僅かな円高であったが、円建ての原油コストは値上がりしたものと見られる。

次週(11/18～24)の大手元売卸価格はガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比±0.0円の据え置きとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月9日～11月15日の製品スポット市況は、11月2日～11月8日平均と比べ、全油種・全取引で、値下がりした。

直近週(11/9～11/15)の陸上スポット価格平均値は、前週(11/2～11/8)比で、ガソリンは0.7円の値下がり、灯油は0.5円の値下がり、軽油は0.4円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(11/9～11/15)に、前週(11/2～11/8)比で、ガソリンは0.5円の値下がり、灯油は1.7円の値下がり、軽油は0.5円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.1円の値下がり、灯油は0.6円の値下がり、軽油は0.1円の値下がりだった。

(RIM)		(単位:円/㍑)	
[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (11/9～11/15)	前週 (11/2～11/8)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	76.3	77.0
	灯油	77.3	77.8
	軽油	77.4	77.8

(TOCOM)		(単位:円/㍑)	
[期近物/終値 [平均]]	今週 (11/9～11/15)	前週 (11/2～11/8)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	75.8	75.9
	灯油	75.5	76.1
	軽油	79.5	79.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/9～11/15実績値) (単位:円/㍑)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.7	▼ -0.1	▼ -0.4
灯油	▼ -0.5	▼ -0.6	▼ -0.6
軽油	▼ -0.4	▼ -0.1	▼ -0.2
A重油	▼ -0.5		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

11月15日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の168.9円、軽油は同0.2円安の148.6円、灯油は18.6円ベースで同1円高の1,950円(1㍑ベースでは同±0.0円の108.3円)。ガソリンは11週振りの値下がり、軽油も11週連続の値下がり、灯油は11週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは13県で、横ばいは10府県、値下がりは24都道県であった。全国最安値は163.5円の岩手県、その次は、163.8円の徳島県と埼玉県であった。他方、最高値は177.0円の鹿児島県だった。最も値上がりしたのは鹿児島県、愛媛県、千葉県の3県(前週

比0.6円高)で、横ばいは京都府他で、最も値下がりしたのは愛知県(同1.3円安)だった。

今週(11月9日～15日)の指標原油価格は値上がりし、為替レートは僅かな円高であったが、円建ての原油コストは値上がりしたものと見られる。次週(11月18日～24日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比据え置きとなった模様。次回調査時(11月22日)のガソリンの小売価格は、これまでの卸値の転嫁状況を踏まえると横ばいが予想される。

(単位:円/㍑)				
(資工庁公表) [週動向]	今週 (11/15)	前週 (11/8)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー	168.9	169.0	▼ -0.1
	灯油	108.3	108.3	➡ 0.0
	軽油	148.6	148.8	▼ -0.2

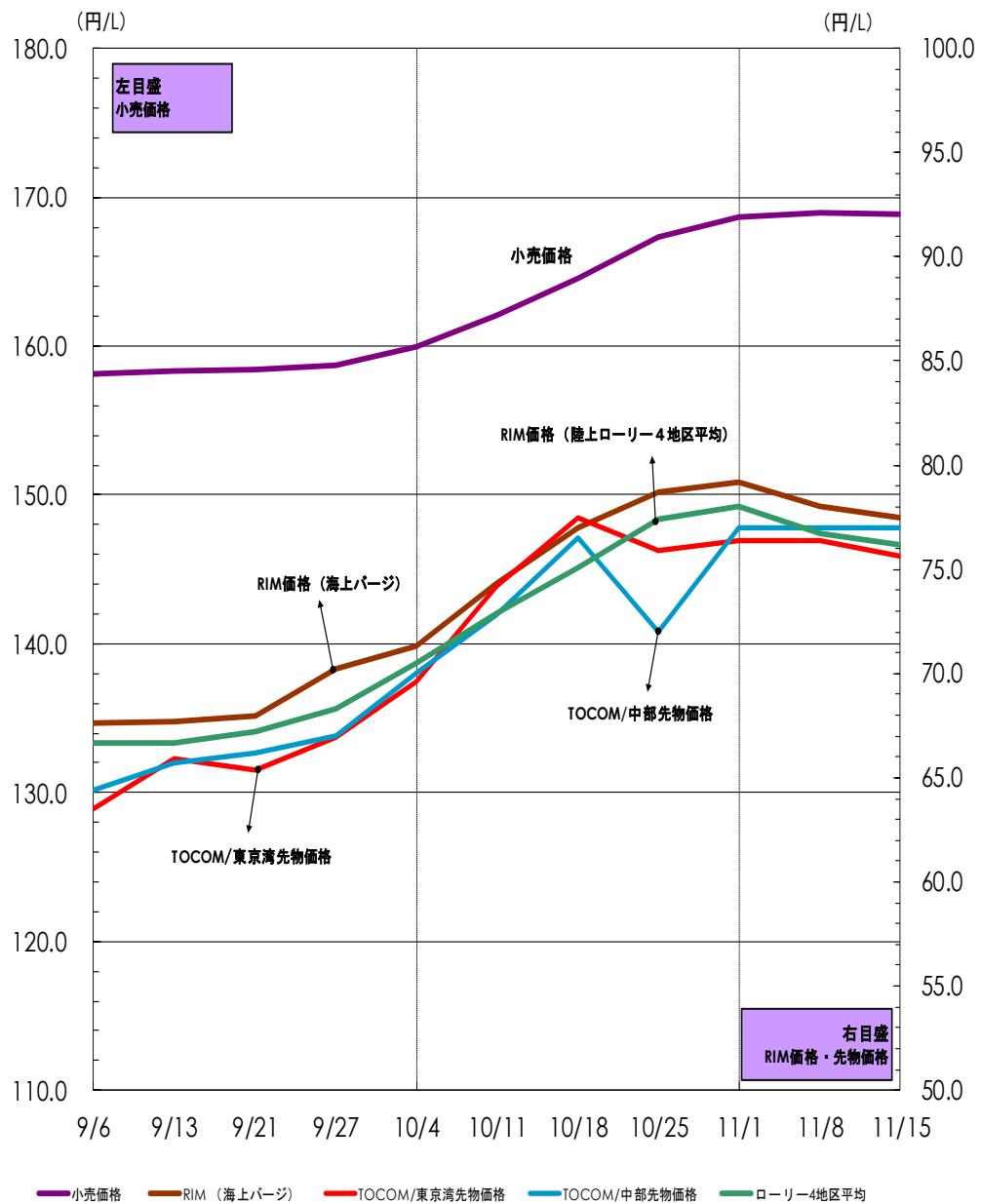
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/9/6 ~ 2021/11/15)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回（2021第33号）の公表は、11/26（金）14:00です。

「セルフSS出店状況」（令和3年3月末現在）は、8月25日（水）14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁HPに掲載）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。